

	課題	改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ひらがなの習得が困難な児童がいる。 丁寧を書くことに声かけの必要な児童がいる。</li> <li>○促音、拗音等を正しく表記すること、文章を書く際の「は、を、へ」を正しく使うことに習熟が必要である。</li> <li>○経験と照らして内容を考えながら話を聞くことに課題がある。</li> <li>○内容を相手に分かりやすく話すことが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○機会を捉えて個別学習を行う。 書き順や正しい字形を意識させる指導を継続し、漢字学習につなげる。</li> <li>○書いたものを声を出して読む、文節を区切って提示するなどして意識化を図る。文を書く時に繰り返し指導していく。</li> <li>○話を聞くときの姿勢やルールを意識させるとともに、内容理解ができているかを適宜確かめながら進め、注意を促す。</li> <li>○「いつ」「どこで」「誰と」「何をした」などの項目を掲示し意識させて話す練習をさせていく。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○場面状況を考え、演算決定をすることに支援が必要な児童がいる。</li> <li>○計算に習熟が必要な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○分かっていること、聞かれていることに線を引かせたり、問題場面を図で表させたりして、立式させる。</li> <li>○ブロック操作など、具体物での活動を多く取り入れ、多くの問題に取り組む。また、計算カードの練習を繰り返しさせる。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観察をするとき、細かく見て描くことが十分でない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観察のポイントを明確にしてから観察をさせる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>○鍵盤ハーモニカで、吹き方や指使いの定着が不十分な児童がいる。</li> <li>○声の出し方や声の高さ、口の開け方など基本的な歌い方が分からない児童がいる。</li> <li>○主体的に聴いたり表現したりすることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ドレミの場所や指使いがどの児童にも分かりやすいよう、シールを貼ったり、掲示用の鍵盤を活用したりするなど教具を工夫して指導する。</li> <li>○基本的な歌い方を繰り返し指導し、ペアで聞き合ったり発表したりする場面を増やして、互いに確認をしていく。</li> <li>○歌唱学習の時に、様子や気持ちを表す言葉に着目させ、身体表現や歌唱を工夫させる。</li> <li>○学んだことを掲示して、表現を工夫する時の手だてとする。</li> </ul>

<p>図 画 工 作</p>	<p>○はさみ、のり、絵の具等の準備や片づけがまだ十分でない児童がいる。 ○うまく形が描けなかったり、色が塗れなかったりする児童もいる。</p>	<p>○生活や、他の学習の中でも使用場面を増やし、準備・片付けの指導を繰り返す。 ○形や色を確認したり、声をかけて根気よく取り組ませたりする。</p>
<p>体 育</p>	<p>○飛びおる、くぐる、よじ登るなど全身を上手に動かすことが苦手な児童がいる。</p>	<p>○様々な体の部位を動かす運動の場を設定し、多様な動きを経験できるようにする。 ○コーディネーショントレーニングを取り入れて、基礎的な運動能力を向上させる。 ○遊具を使用する際のルールや、やってはいけないことなど、安全に対する指導を繰り返し行う。</p>

	課題	改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新出漢字が増え、定着が難しい。</li> <li>○言葉の意味が理解しきれないため、文章問題や場面把握に課題が見られる。</li> <li>○大事なことを落とさずに聞くことが難しい児童がいる。</li> <li>○内容を相手に分かりやすく話すことが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○繰り返し練習の機会を増やし、小テスト等を実施して定着を図る。</li> <li>○読書の時間や読み聞かせをたくさん行う。また、言葉の意味が理解できているかその都度確認し、説明する。さらに、言葉の使い方にも触れていく。</li> <li>○何について話をしているのか明確に伝え、意識して聞くことを指導していく。</li> <li>○話し手を見て、最後まで聞くことを徹底させる。</li> <li>○いつ、どこで、誰と、何をしたなどの項目を意識させて話すことを指導していく。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時刻と時間や長さなど単位を使った計算や単位換算が苦手である。</li> <li>○数の相対的な大きさについて理解が不十分な面が見られる。</li> <li>○数の構成や数列が分からない児童がいる。</li> <li>○繰り上がり、繰り下がりのある計算にミスが多く見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活の中で進んで活用できるように、時刻を読ませたり物差しを利用させたりする。</li> <li>○具体物の提示やブロックの操作などを通して、十や百などを単位として数の大きさを捉える機会を増やす。</li> <li>○1年生で学習した「10はいくつといくつでできているか」という練習を繰り返し行う。</li> <li>○計算カードを使って、繰り上がりと繰り下がりのある計算の練習に、引き続き取り組ませる。また、東京ベーシック・ドリル等のプリントを使用し、必要に応じて立ち戻り学習を行い、基本的な問題の習熟を図る。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の気付きを共有し合うことが難しい場面が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○気付いたことを記録したり、発表したりする機会を多くする。</li> <li>○調べたことの何に気付かせるか学年で明確にし、授業の中で視点を与える声かけをしていく。</li> </ul>

音楽	<p>○歌唱で、一生懸命に歌っているものの音程を合わせられない児童がいる。</p> <p>○鍵盤ハーモニカの演奏技能に個人差が見られる。</p> <p>○リズム打ちなどにおいてリズムが安定しない児童がいる。</p> <p>○主体的に聴いたり表現したりする態度が十分に育っていない。</p>	<p>○聞き合う場面を増やしていくことで、周りの声を聴く意識を育てていく。</p> <p>○ポイントをしばって反復指導を徹底し、難しい箇所は互いに教え合う等、学習形態を工夫することで技能の向上を図る。</p> <p>○リズム打ちやリズム作り、鑑賞などを通してリズム感を育てる。</p> <p>○様子や気持ちを表す言葉と共通事項を結びつける活動と鑑賞・表現の両方の学習を取り入れる。</p> <p>○適切な人数による学習形態を工夫し、自分の思いや考えを伝える場面を増やす。</p>
図画工作	<p>○はさみ、のり、絵の具等の道具の扱いがまだ十分でない児童がいる。</p> <p>○表現することを楽しむ児童は多いが、発想が広がりにくい児童も見られる。</p>	<p>○生活や他の学習の中で使用する場面を増やし、道具に慣れさせる。</p> <p>○題材の導入を工夫して興味をもたせる。また、教師の言葉かけや他の児童の活動を参考にさせる。</p>
体育	<p>○全身を上手に動かすことができない児童が多い。</p> <p>○体幹が弱く、姿勢保持ができない児童が多数いる。</p> <p>○体を動かすことに苦手意識のある児童が多数いる。</p>	<p>○鉄棒・マットなどの器械・器具を使つての運動遊びを中心に、様々な場を用意し、運動経験を増やすようにする。また、鬼遊び、走跳の運動遊びをなるべく多く設定していく。</p> <p>○コーディネーショントレーニングを取り入れて、基礎的な運動能力を向上させる。</p> <p>○体を動かすことが苦手な児童の為に、遊具や教具の正しい使い方を指導し、ルールを簡単にして誰もが楽しめる遊びを行えるようにする。</p>

	課題	改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習した漢字を適切に使えないことが多い。また、定着が難しい児童がいる。</li> <li>○話の中心を考えながら、最後まで話を聞くことが苦手な児童が多い。</li> <li>○相手が分かりやすいように話すことが苦手である</li> <li>○構成を考えたり、自分の考えや気持ちを入れたりして文章を書くことが苦手な児童がいる。</li> <li>○原稿用紙の使い方が定着していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常的に新出漢字の使い方や読み方について意味を調べ、反復練習を行うことにより習熟を図る。繰り返し練習の機会を増やし、小テスト等を実施して定着を図る。</li> <li>○授業以外に日常生活の中でも、話し手を見て聞くことや質問は最後にすることを意識させる。話の内容を振り返る機会を多くしていく。</li> <li>○日頃から主語・述語を落とさずに話す練習をさせる。</li> <li>○書きたいことの内容を明確にして短い文章を書く機会を多くする。構成メモなどを活用しながら気持ちを表す行動に着目させ、文章を書くように指導する。</li> <li>○視写等をさせ、使い方に慣れさせる。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実際の場所と地図とを重ね合わせて考える経験が少ない。</li> <li>○資料を読み取り、まとめる経験が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○四方位を確認したり、地図で場所を確認したりすることをくり返し指導する。また地図記号を活用できるようにする。</li> <li>○資料の見方を指導し、必要な情報を読み取る場面を多く設定する。また、調べたことについて、自分の考えをまとめたり、発表したりする機会をできるだけ多くする。</li> </ul>

算数	<p>○「時間と時刻」「繰り上がり繰り下がりの計算」が苦手な児童がいる。</p> <p>○問題を理解し、図や表を用いて正しく演算決定できない児童がいる。</p> <p>○既習事項が定着していない児童がいる。</p>	<p>○時間と時刻の違いや時刻の進み方などを日常の生活の中で指導する。10進位取り記数法を繰り返し指導する。</p> <p>○習熟度に応じた学習課題を繰り返し与え、既習事項の定着を図る。</p> <p>○図や表を用いて考えさせる授業を常に行う。また、友達同士で意見を聞き合う活動をたくさん取り入れ、多様な解決方法にふれさせる。</p> <p>○習熟度に応じて学習課題を変え、児童の実態に沿うようにする。</p> <p>○必要に応じてジャンプアップ学習や個別指導を行い、既習事項の習熟を図る。</p>
理科	<p>○実験や観察を進んで行うが、結果を考察したり表現したりすることは苦手である。</p> <p>○実験器具の使い方に慣れていない。</p>	<p>○観察を継続的に行ったり、複数の実験を行ったりし、その比較から考えをまとめることができるようにする。</p> <p>また、グループでの話し合いを通して、自分の考えをまとめることができるようにする。</p> <p>○実験器具を扱う場面では、初めて使用する器具が多いので、安全に配慮し丁寧な指導を行っていく。</p>
音楽	<p>○意欲をもって歌唱に取り組んでいるが、地声で歌ってしまう児童が多い。</p> <p>○リコーダーの演奏技能で個人差が見られる。</p>	<p>○様々な歌い方があるという前提で、頭声的な発声を意識できるように日々の授業で指導し、高学年の歌声を真似することを意識させる。</p> <p>○スモールステップを意識した指導を進めて、一人一人が確実にできるように個別に確認をしていく。</p>
図画工作	<p>○意欲的に取り組む児童が多いが、新しい発想が浮かばない児童も見られる。</p> <p>○意欲的に取り組み始めても、活動の途中で、用具の扱いが困難になる児童が見られる。</p>	<p>○題材の導入を工夫し、個別に声をかけ支援する。</p> <p>○題材の始めに既習の基礎・基本を指導し、定着を図る。また、個別に指導・支援をする。</p>

<p style="text-align: center;">体 育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○器械運動、ゲームなど学習で個人差が大きい。</li> <li>○体育テストの結果から俊敏性や瞬発力、持久力が低い傾向が見られる。</li> <li>○個人の課題を設定したり、ゲームのルールを工夫したりする経験が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○段階的な練習の方法を提示し、自分の力に合った方法を選ぶことができるように助言や支援をする。</li> <li>○コーディネーショントレーニングや鬼遊びや走跳の運動遊びを多く設定する。場の設定を工夫し、個々の運動量を増やし、学習の満足度を高めていく。</li> <li>○お互いに見合い、自分やチームの課題に気づけるようにする。また学習カードを取り入れるなど、振り返りを大切にする。</li> </ul>
--------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	課題	改善策
国語	<p>○学習した漢字を適切に使ったり、丁寧正確に書いたりすることが苦手な児童がいる。</p> <p>○話の中心を考えながら聞くこと、最後まで話を聞くことが苦手な児童がいる。</p> <p>○自分の考えに根拠を付けて述べるのが苦手な児童がいる。</p> <p>○構成を考え文章を書くことが苦手な児童がいる。自分の考えや気持ちを文章にすることが苦手な児童がいる。</p>	<p>○新出漢字の意味を丁寧に扱い、使い方や読み方の反復練習を行い習熟を図る。小テストを行う。 プリントやノートの点検をまめに行い丁寧に書くよう指導する。</p> <p>○話し手の意図を考えながら聞くこと、結論を確実に聞くこと、質問は最後にすること等を日常的に意識させる。話の内容を振り返る機会をもつ。</p> <p>○教材文の根拠に当たる部分にサイドラインを引かせる。「なぜなら」や「理由は」などの接続語を使って書いたり発言したりさせる。説明文の読解で文章構造や接続語について十分分析させる。</p> <p>○書きたいことの内容を明確にさせ文章構成を考えさせる。構成メモなどを活用させる。心情を表す行動に着目させる。</p>
社会	<p>○実際の場所と地図とを重ね合わせて考える経験が少ない。</p> <p>○資料を読み取り、まとめる経験が少ない。</p>	<p>○四方位を確認したり、地図で場所を確認したりすることをくり返し指導する。</p> <p>○資料の見方とそこから分かることを言わせる指導を繰り返し、必要な情報を読み取る場面を多く設定する。 また、調べたことについて、自分の考えをまとめ、発表する機会を多くする。</p>
算数	<p>○わり算の筆算の習熟が不十分である。</p> <p>○文章問題の文意の把握や演算決定が困難な児童がいる。立式したり図や表に表して考えたりすることが苦手な児童がいる。</p>	<p>○筆算形式の流れを具体物の動きと結び付け筆算形式の意味理解に資する。 アルゴリズムを身に付けさせるために反復学習をする。 筆算のミスが発生した場合に個別指導をする。</p> <p>○問題場面のイメージ化を促す発問や援助をする。数値の関係を図式化することで情報が整頓できる良さを扱う。</p>



理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活経験に乏しく学習内容と関連づけにくい場合がある。</li> <li>○実験自体が目的になり、実験への目的意識が薄れる場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体験的な学習を取り入れそこから分かることを学習と結び付ける。</li> <li>○疑問を十分醸成し目的意識をもたせる。結果をまとめる際疑問と対応させる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集中することに時間のかかる児童が各クラスに見られる。</li> <li>○リコーダーの演奏技能で個人差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別に声かけや指導が必要な児童への配慮を心がけて指示を出すとともに、視覚的にも分かりやすい工夫をする。</li> <li>○個別に適切な指導をするとともに、児童が意欲をもって取り組める課題を用意する。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動の過程に、自分や友達の作品（活動）をふりかえり、自分の表現に生かしていく場面が少ない。</li> <li>○意欲的に取り組み始めても、活動の途中で、用具の扱いが困難になる児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○短い時間でも鑑賞タイムを設定し、自分や友達の作品のよさや面白さを見つける機会を作る。</li> <li>○題材の始めに既習の基礎・基本を指導し、定着をはかる。また、個別に指導・支援をする。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体力テストの結果から基礎的な体力が不十分である。</li> <li>○投球や水泳など、体全体を連動させる運動が苦手な場合がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外遊びを促す。授業開始後体力を養う運動を帯で入れる。運動量の多い授業内容を心がける。</li> <li>○コーディネーショントレーニングを取り入れて、基礎的な運動能力を向上させる。</li> <li>○体の動きがどのようになっているかICT機器を活用するなどして分析する。体を動かす際のポイントを授業で扱う。</li> </ul>

	課題	改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習した漢字や言葉を日常的に適切に使う力が十分ではない。</li> <li>○自分の意見を相手に伝わるように話すことが苦手な児童がいる。</li> <li>○全体の構成を考えながら、自分の考えが伝わるように書くことが苦手な児童がいる。</li> <li>○「児童・生徒の学力向上を図るための調査」より、書く力の正答率が低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が興味をもてるテーマで文章を書かせたり調べさせたりし、その中で既習の漢字を使う機会を増やす。新出漢字の学習ではその漢字の持つ意味や熟語と関連づけて理解させるようにする。</li> <li>○自分の意見に根拠をつけて話すなど説得力のある話し方を指導していく。</li> <li>○例文を用い、始め中終わりを基本とした構造を理解させた上で構成メモを作らせる。書いた文章は読み合ったり、発表したりさせ、相手意識をもたせる。構成を考える上での土台となる文章を読み取る力を定着させるため、事実と意見を区別する、要点をまとめるなどの学習を説明的文章の学習で重点的に行う。朝読書の時間を活用し、日常的に読書に取り組みせる。</li> <li>○物語文や説明文を取り扱う授業では、登場人物の心情や筆者の考えを文章化させる活動を多く取り入れる。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題を身近な問題として、捉えにくい。</li> <li>○複数ある資料から、必要な情報を取捨選択する力が不十分である。</li> <li>○資料から読み取ったことを関連づけたリ、活用したりする力が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分たちの生活に関わりのある事象や時事問題を導入時に活用する。</li> <li>○グラフの読み方や、資料の読み取りのポイントを示してから、調べさせるようにする。</li> <li>○読み取ったことを文章だけでなく、図や表で表し、関連性を視覚化させる、</li> </ul>

算数	<p>○小数のわり算の筆算が正確にできない児童が多い。</p> <p>○解決方法を自分の言葉で説明したり考えを文章に書いたりすることが苦手な児童が多い。</p> <p>○基準量・比較量・割合の関係を正確に理解できていない児童がいる。</p> <p>○「児童・生徒の学力向上を図るための調査」より、問題を読み取る力にやや課題がある。問題の問われ方が変わると、学習したことを活用して問題を解くことができない児童がいる。</p>	<p>○除数を整数にするために被除数も等倍するといった小数の除法の考え方と、小数点を移動する作業とを結びつけて理解させる。計算練習を繰り返し、正確なアルゴリズムの習慣を定着させる。</p> <p>○解決型の展開に沿ってペアや小グループなど考えを相互交流したり協力して解決したりする場面を設定する。</p> <p>○未知の数を□に置き換えて文章をそのまま立式させたり、数直線を用いて視覚的に関係をとらえさせたりする。</p> <p>○問題文の数関係などを図表化させ、問われていることが図や表と一致しているか確かめさせる習慣を付けさせる。</p>
理科	<p>○実験や観察をすすんで行うが、結果を考察したり表現したりする力は十分ではない。</p>	<p>○課題の問題解決の道筋を示し、問題に対して実験した結果からわかったことを問題に正対して考察として書かせる。その際、大事な語句を例示するなどして考察するときの基本的な型を指導する。</p>
音楽	<p>○集中することに時間のかかる児童が各クラスに見られる。</p> <p>○歌唱に対しては意欲をもって取り組めるようになってきたが、リコーダー等の器楽において、演奏技能の個人差が大きい。</p>	<p>○個別に声かけや指導が必要な児童への配慮を心がけて指示を出すとともに、視覚的にも分かりやすい工夫をする。</p> <p>○個別に適切な指導をするとともに、難易度別の課題を用意して児童が意欲をもって取り組める工夫をする。</p>
図画工作	<p>○画材や用具の基礎・基本的な扱いに苦手意識のある児童が見られる。</p> <p>○発想豊かに自分の表現をすすめる児童も多いが、自信がなく発想が広がらない児童もいる。</p>	<p>○用具の基本的な扱い方、使用方法を繰り返し指導していく。また、個別に指導・支援をする。</p> <p>○グループでアイデアを言い合う時間を設けたり、題材に関する参考資料を提示したりとアイデアを引き出すような支援をしていく。</p>

家庭	<p>○生活経験の違いから、技能に個人差が見られる。</p> <p>○自分の生活を見直し、主体的に改善しようとする機会が少ない。</p>	<p>○つまずきやすい箇所を可視化し、ICTを効果的に活用しながら分かりやすい説明を工夫する。また、ほっとメイトさんの支援や、グループ活動を通して学び合いを活発にする。</p> <p>○衣食住生活で家庭生活を考える活動や実践を取り入れ、自分の生活をすすんで考えられるようにする。</p>
体育	<p>○器械運動等、克服型の運動領域に個人差が大きく見られる。</p> <p>○体力テストの結果からは、筋瞬発力、持久力に低い傾向が見られた。</p> <p>○校舎内外での過ごし方について安全意識が低い児童がいる。</p>	<p>○学び合いを活発にしたり、学習カードを活用したりし、自分の課題を個別に練習できる機会を設けていくとともに、ICTを学び合いに活用する。</p> <p>○コーディネーショントレーニングを取り入れ、基礎的な運動能力を向上させる。</p> <p>○保健「けがの予防」において、遊具を使用する際のルールや、やってはいけないことなど、安全に対する指導を改めて行う。</p>
外国語	<p>○英語での表現の間違いを恐れ、大きな声で発音できない。</p>	<p>○表現の仕方を明確に提示する。交流やゲームを通して習った表現を繰り返し使うことになる場面を設定する。</p>

	課題	改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習した漢字や言葉を日常的に適切に使う力が十分ではない。</li> <li>○自分の意見を相手に伝わるように話すことが苦手な児童がいる。</li> <li>○全体の構成を考えながら、自分の考えが伝わるように書くことが苦手な児童がいる。</li> <li>○学力調査より、伝統的な言語文化（ことわざなど）が全国の平均値より下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新出漢字の学習ではその漢字の持つ意味や熟語と関連づけて理解させるようにする。毎時のふり返りや感想を書く際、既習の漢字を使うことを意識させる。</li> <li>○賛成・反対・聞き手・進行などの話し合いの基本となる立場をそれぞれ経験させる。その上で学習班での交流活動を行う。</li> <li>○書いた文章は読み合ったり、発表したりさせ、相手意識をもたせる。構成を考える上での土台となる文章を読み取る力を定着させるため、事実と意見を区別する、要旨をまとめるなどの学習を説明的文章の学習で重点的に行う。朝読書の時間を活用し、日常的に読書に取り組みさせる。</li> <li>○日々の授業や家庭学習で、教科書に出てこないことわざや四字熟語なども習得させる。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史上の人物や出来事を関連づけて、理解する事が苦手な児童がいる。</li> <li>○歴史上の人物や用語の定着率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人物や業績、時代背景など調べたことを図解化してまとめ、歴史の流れや関連性を明確にし、思考を深めさせる。</li> <li>○図で表したものを、話型を用いて、自分の言葉で説明させる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計算はできるが、計算の仕方を自分の言葉で説明したり、自分の考えを文章に書いたりすることが苦手な児童が多い。</li> <li>○基準量・比較量・割合の関係を正確に理解できていない児童がいる。</li> <li>○問題を比較・関連づけて読み取る力に課題がある。</li> <li>○学力調査より、図形の見方が全国の平均値より下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題解決型学習を多く取り入れる。使える既習事項、解決すべき事項などのポイントをおさえ、課題を絞って問題に取り組みさせる。</li> <li>○数直線図を用いて視覚的に関係を捉えさせ、理解できるようにする。未知の数を□やXに置き換えて、図式化させる。</li> <li>○聞かれていることや分かっていることは何かを問い、分かっている情報をどのように活用していけばいいのか考えさせる活動を取り入れる。</li> <li>○図形の単元では、図形を多面的に見る活動を多く取り入れる。</li> </ul>

理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験観察から考えたことをまとめたり表現したりすることはできるが、そこから学習したことが知識・理解に十分に定着しないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験の考察からわかったことをまとめとして言語化させる。また、小テストを計画的に実施するなどして知識の定着をはかる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲をもって取り組める児童が増えているが、個別な説明や対応が必要な児童が各クラスに見られる。</li> <li>○鑑賞では適切に書くことができる児童が増えているが、内容が不十分な児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○誰にでも分かりやすい授業を心がけ、配慮が必要な児童には個別に確認をしたり、声かけをしたりする。</li> <li>○個別の指導やヒントカード、別のプリントを用意するなど配慮をしていく。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発想や構想がなかなか深まらないで、停滞しがちな児童が見られる。</li> <li>○見通しをもって、計画的に作品づくりをすることが苦手な児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○参考資料を提示したり、友達の作品や、身近な美術作品の鑑賞をしたりして、想いを広げる。</li> <li>○題材全体の取り組み時間を示し、計画的に取り組めるようにする。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活経験の違いから、技能に個人差が見られる。</li> <li>○自分の生活を見直し、主体的に改善しようとする機会が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○つまずきやすい箇所は確認や練習をしながら定着させる。また、学び合いを活発にして、生活に関する意識を高め深く考えられるようにする。</li> <li>○衣食住生活で家庭生活を考える活動や実生活に基づく実践を取り入れ、自分の生活をすすんで考え改善していけるようにする。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リレーのバトンの受け渡しの際、スピードが落ちてしまう子がいる。</li> <li>○体力テストの結果からは、筋瞬発力、持久力に低い傾向が見られた。</li> <li>○運動技能の向上に対してどのように練習すればよいかわからない子がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前走者がどこまで来たらスタートすればよいかマーカースを使わせるなど器具の工夫をし、チームごとに練習の工夫ができる場を用意する。</li> <li>○コーディネーショントレーニングを取り入れ、基礎的な運動能力を向上させる。</li> <li>○子ども個人の学習課題に対してどのような運動を選べばよいかアドバイスし、個人差に対応できるような学習の場づくりをする。</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アクティビティの時に、学習した英語を使わずに活動してしまう児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アクティビティに入るまでに、児童に本時の単語やフレーズを楽しみながら定着させることと、教師が児童の実態を把握し、ALTと分担し合いながら素早く個別に指導する。またアクティビティ中に安心して分からないことを友達にも聞き、教え合いができる学級経営をしていく。</li> </ul>

	課 題	具体的な改善策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スピーチや感想文では、「～しました。」という事実のみの表現になったり、「楽しかったです。」などの同じ心情表現になったりする。</li> <li>○相手にわかりやすく内容を整理して伝えることが苦手な児童がいる。</li> <li>○促音、拗音の表記が定着しづらい児童がいる。</li> <li>○相手を意識して聞くことが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○始めは気持ちを表す言葉を例示し、その中から選択させることで、語彙を習得させていく。</li> <li>○「いつ」「どこで」「誰が」「何をした」などの項目の書かれているワークシートを使用する。</li> <li>○単語に拍子をつけ、手拍子と合わせて発音するなど体を使って覚えられるようにする。 例) ス キ ッ プ (単語) パ パ ッ パン (手拍子)</li> <li>○意識して聞けるような座る位置、視線の確認をする。また、聞く時間を徐々に延ばしていき、きちんと聞けている状況を即時フィードバックしてプラスイメージをもたせる。</li> </ul>
算 数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○興味・関心・意欲が継続しない児童がいる。</li> <li>○繰り返し上がり、繰り返し下がりのある計算の習得でつまづく児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○具体物や半具体物を用意するなど、児童の興味関心が高まるような教具を用意する。また、身近な事象と結びつけて課題を作る。</li> <li>○時間を構造化し、短く区切って学習する。</li> <li>○ブロックやおはじきなどの半具体物を操作しながら、数の合成や分解が理解できるように指導していく。</li> </ul>
日 常 生 活	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近自立の定着が難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童によって課題の量を調整し、やり終える達成感を味わわせることで、徐々に課題の量を増やすようにしていく。</li> <li>○児童自身が自分の力でできるよう、余裕をもった時間の設定をしたり、見守りながら支援のタイミングを見付けたりする。</li> <li>○家庭と情報交換をしながら連携してやっていく。</li> </ul>
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>○感覚過敏等で集団で歌うことや合奏することに積極的に参加できない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽器、童歌、リズム打ちなどいろいろな活動を取り入れたり、児童同士の関わりを作ったりすることで意欲的に参加できるようにする。また、同じ教材を繰り返し行い、安心して参加できるように慣れさせる。</li> <li>○イヤマフを着用させ、音の刺激を小さくする。</li> </ul>

<p>図 工</p>	<p>○教員からの指示が多くなってしまい、児童がそれぞれどのように作品を作っていくか考える時間が少なくなっている。</p> <p>○発達年齢の幅が広いため、課題によって児童の実態に合わないものがある。</p>	<p>○言葉かけを最小限にし、児童が自ら考え、活動するのを待つ。</p> <p>○全体指導と学年指導の時間に分け、発達年齢に応じた課題に取り組める時間を作る。</p>
<p>体 育</p>	<p>○技能面での定着がしづらい。</p> <p>○体幹保持の難しい児童がいる。</p>	<p>○発達段階に応じた課題ごとのグループ分けをし、スモールステップでの指導・支援を行う。</p> <p>○感覚統合を取り入れた、スクーターボードや人工芝生歩きなど楽しんで体幹を鍛えられるようにする。</p>